

家具よもやま話 No.6

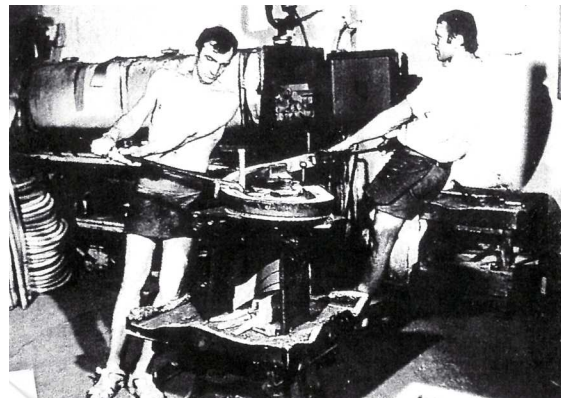
今回は1859~1860年にオーストリアのミヒヤエル・トーンネット父子設計の曲木の椅子「No14」(写真①)のお話です。

1865年から現在まで多少の変更はあるものの脈々と作り続けられている椅子で、あまりに身近すぎて「なんだこれか!」と思うかもしれません。しかし、実はスゴイのです。

写真②は材料のブナ材の外側に軟鉄のフラットバーを添わせ、末端をクランプで固定し、内側の治具に巻き付ける加工をしているところです。後方に見えるのはブナ材を蒸して柔らかくする蒸気釜で、すばやく作業するためでしょうか、扉は開いたままになっており、内部に材料が積み重ねられているのが見られます。

この工程は釜に近く暑いため、職人もほとんど裸で作業していますが、今日、日本ではもちろん、海外でも安全上こんなことはありません。

曲げているのは平角材のようなので、写真③下の座枠と思われる。曲げ加工後フープ状にジョ



写真②

外側をフラットバーで押さえる



スカーフジョイント

図A

写真「いす 100 のかたち、ヴィトラミュージアムの名品」から

小長谷 光

イントし、丸く面取りをするのですが、このジョイントは接合部が目立ちにくいスカーフジョイント(そぎ継ぎ)図Aで、曲木製品以外ではあまり目にすることはないでしょう。座の下のフープ状の補強費も同じです。

図Bのように軟鉄のフラットバーを添わせて曲げるのは、材料の応力の中心線が曲げるに従い内側に寄ってきて、外側の引張り力が増大し木が裂けてしまうのを避けるためです。

写真④は、1立法メートルの中に「No14」の部品がどれだけ入るか示すもので、なんと36脚分も入っています。家具は完成品であれば「空気を運んでいるようなもの」と言われるほど輸送効率が悪いものですが、部品が少なく、要所がネジ止め、分解・組み立てが容易な「No14」の登場は輸送コストのみならず、それまでの概念を覆すものとなりました。

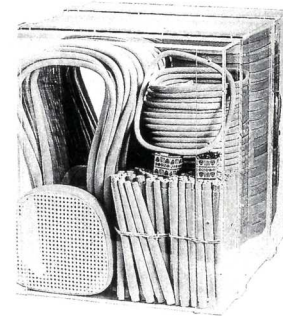
この立方体の左下に座面が藤編みされた座が見えますが、座枠の前が少し角ばっているため、写真①の後にモデルチェンジされたものでしょう。



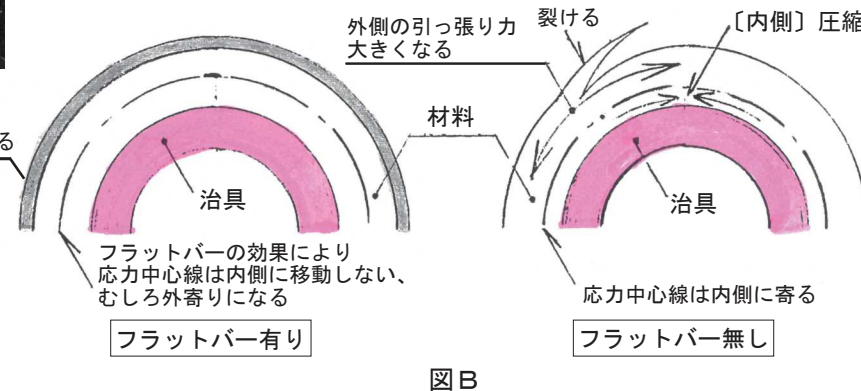
写真① No14



写真③



写真④



図B

<令和2年度 基本方針> [議案書抄録]

新型コロナウイルスの感染者は全国に広がり大阪でも増える一方で、東京オリンピックは1年程度の延期が発表された。広島で実施される予定の本部総会も本年度は見送られ、急遽、簡素化して大阪でおこなうこととなった。尚、来年は広島で再度おこなわれる予定である。政府からも7都府県に「非常事態宣言」が発令され、当会の活動にも支障が出てきている。

受験学校も始業の遅れから、今年カリキュラム、検定試験対策授業等に影響が出てくるものと思われる、7月実施の検定試験は10月に延期が決まったが、受験者減は覚悟しなければならない。そのため、今年度は既存の受験校のフォローにより一層力を注がなければならない。学校訪問も今年は動きづらいため、既存校の受験者数が鍵となってくる。

昨年受講者がなく実施できなかった「インテリア設計士受検対策講座」においても準備が整わず募集を見送ることとした。

第1事業部のもう一つの柱である、「葉知利書」は年4回の発行を予定し、さらなる紙面の充実にも努めることとする。

会員に対するサービスとしては、第2事業部の「見学会」・

「講習」・「親睦」が挙げられる。「見学会」は延期となった、「円成寺」や「八木邸」をはじめ、歴史ある寺社仏閣を年間3~4回計画したい。スマートフォンで簡単に情報が手に入る時代、「講習」「講座」についてもその内容が求められるが、会員が望むものを的確に把握したいところである。

「事遊展」は会場の見直しも視野に入れ、テーマを出るだけ早く決定し会員に伝え、参加者を増やすことに努め、定番の「ピアパーティー」・「新年会」・「TALK-PAL」・「篆刻教室」の継続、新たな企画についても検討したい。

現在、OISの会員数は151人であるが、これからより進む会員の高齢化を考えると、役員の人材不足も問題である。次世代のインテリア・建築界を担う、会員の育成にも目を向けなければならない。

また、会員へのメリットとして、学生または転職希望者、専業主婦の再就職など「就職活動の支援」にも協会が役立てるようにしたい。

コロナ騒動の終息を願いつつ、2020年もOISの活性化、発展のために、会員一同、一致協力することをもって基本方針とする。



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>

E-mail ois@jp-interior.or.jp

facebook「大阪府インテリア設計士協会」

4・7・10・1月 4回/年発行

発行人：河野 洋二

編集：OIS 第1事業部会

命を守る No.110

HASHIRIGAKI

葉知利書



紅葉が残る昨年12月に京都大山崎の藤井厚二設計「聴竹居」を見学しました

緊急事態宣言を受けて

皆様、お変わりありませんか。

2020年2月中旬以降、新型コロナウイルス感染症の世界的流行(パンデミック)となり、あっという間に世界情勢が激変し、先の見通しが立たなくなりました。日本では4月7日に緊急事態宣言が発令され、社会全体に重大な影響が出ています。この間、SJIT及びOISでも大幅な予定変更を余儀なくされました。主なものを下記に列記します。

まず、SJITでは、5月16日(土)・17日(日)の広島での本部総会及び見学は中止になり、代わりに5月16日(土)、大阪で執行部のみ集まり、総会及び今後の対応を協議することになりました。

7月4日(土)・5日(日)の検定試験は10月17日(土)・18日(日)に延期され、申込受付期間や合格発表等もそれぞれ変更になります。詳しくは、SJITホームページ検定試験のサイトをご確認下さい。今後、検定試験関連の情報が刻々変わる可能性がありますので、必要に応じ、事務局にお問い合わせ下さい。

OISでは「円成寺見学」、「八木邸見学」がやむを得ず中止されました。機会を見て再企画いたします。その時まで楽

しみに置いて下さい。OIS令和2年度総会は下の記事のように規模を縮小して開催しました。総会検定試験対策講座開催は当面見送ります。会員皆様のお知り合いで検定試験受験希望者がいらっしゃれば事務局に一報下さい。検定試験対策等個別に指導します。2頁に掲載した年間行事予定で、6月以降の催事は、今のところ、開催予定です。変更になれば参加者等に直接連絡します。

令和3年度SJIT本部総会が、来年5月に大阪で開催予定でしたが、再来年に順延されます。その頃には平常に戻って無事開催されることを祈念します。

皆様の勉学、仕事に於いても多大な影響が生じていることと思います。非常時に最も重要なものが「正しい情報」です。フェイクニュースが巷に溢れていますが、それらに惑わされず、出処が確かな情報を適時チェックして下さい。OISは、極力、皆様により情報源になるべく努めます。

今回の世界史にも残る災難により、世の中の価値観が根底から変わることは間違いありません。コロナを予防するのは勿論、ストレスや人災に気を付け、「命を守る」ことが第一です。次にそれぞれの社会的役割を担って頂きたく、切にお願いいたします。(会長・河野 洋二)

令和2年度総会報告

大阪府インテリア設計士協会令和2年度総会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、会員各位に参加を求めず、急遽、事務局にて少人数で、異例の開催となりました。理事・出席予定者には直前に「無観客試合」扱いとなることを通知しました。

4月17日(金)18:30から会場をOIS事務局に変更して、河野会長、今井副会長、岡崎専務理事が出席し議事を進めました。議案に対して、特に事前に会員からご意見、質疑等はなく、3名の会場出席者及び62通の委任状により、定足数(会員総数151人=会員の1/3以上)を満たし、総会は成立し、審議は滞りなく行われたことを報告致します。



岡崎専務理事

河野会長

今井副会長

OISの回想録 (2)

顧問 足田 友一

今回は、OIS会員同士の親睦が深まった体験談についてお伝えしたいと思います。

今から33年前の昭和62年11月28日、みぞれの降る寒い日でした。大竹会長(故人)、椿さん(故人)、宮本さん、奥田前事務局長と私の5人で丹波篠山観光から丹波焼の窯元の里、「丹波立杭」へ行き、約60軒の窯元の並ぶばば中央にある丹波伝統工芸公園の「立杭・陶の郷(すえのさと)」で鎌倉～江戸時代の「古丹波」の名品と、現代作家の作品を鑑賞しました。その日は、窯元の里の中にある旅館「立杭荘」に泊まり、牡丹鍋と美酒で体を温め語り合い、楽しい時間を過ごしました。

翌朝、「丹文窯」へ行き、かじかむ手で窯元のご主人の指導を受けながら初めて陶芸に挑戦しました。粘土を細い紐状にして積み上げる「手びねり」の手法ですが、なかなか思うように出来ません。ご主人から「初めは灰皿ぐらいしか作れないよ」と言われ、確かに何度も潰しては作り直しの連続でしたが、何とか高く積み上げて壺を作りました。土を触る時の自然に帰る何とも言えない感触、忙しい毎日で疲れた心と体を癒してくれる効果、何もかも忘れて作ることに没頭し無になれる時間、出来上がった作品への期待など、ものづくりでの素晴らしい魅力に感動しました。

この魅力を会員に味わってもらおうと、翌年、第1回「陶芸教室&アウトドアパーティー」が開催され、回を追うごとに参加者は増え、一時期は50人を超える大所帯となり、アウトドアパーティーはまるで丹文窯のお祭りのように大盛況でした。



筆者

陶芸教室は平成28年、第30回まで続きましたが、現在は参加者の減少により残念ながら中止されました。私も毎回参加し、作品が増え続け、良い作品は家の階段一段毎に並べて楽しんでいましたが、家族から危ないと言われ、今はデスクの上に気に入った作品だけ飾っています。

前回、新入会員や若い会員の方々は、「まずは親睦から入るのが一番良い方法で、それによって自然に人の輪が広がり、自分にとって必要な情報を得ようとすればいくらでも得られる」と書きました。私にとってはその効果は大きく、多くの成果を得ることが出来たと思っています。

昨年からの3月まNHKの連続テレビ小説「スカーレット」が放送されました。焼き物の里、信楽で女流陶芸家の波瀾万丈な人生の物語です。今、若い人達も含めて陶芸ブームが盛り上がっていると聞きます。私もその中で「手びねり」で作る場面を観て、丹波立杭での陶芸教室の事を懐かしく思い起こし、今度は信楽で陶芸教室が出来れば良いなと思っています。

パソコンやスマホばかり見ていたら疲れちゃったなあなどと思われたら、是非、青年部の皆さんで信楽での陶芸教室を企画してはどうですか。



映画とインテリア No.4 今井 俊夫

今回ご紹介するのは『天井桟敷の人々』(1945年/フランス)。監督:マルセル・カルネ 脚本・演出:ジャック・プレヴェール 美術監督:アレクサンドル・トローネル 主演:アルレッティ、ジャン＝ルイ・バロー

この映画は、私が最も感銘を受け、ぜひ皆様にお薦めしたい作品です。時は19世紀初頭フランス民主主義が確立した7月革命(1830年)前後のパリ。芝居小屋が立ち並び「犯罪大通り」と呼ばれたタンブル通りを舞台とした物語です。

この映画を語るには紙面が幾らあっても足りません。見所を列記すると、冒頭三分で観客の心を掴むテンポと迫力。一癖も二癖もある出演者たち、妖艶なアルレッティの立ち振る舞い、ジャン＝ルイ・バローの pantomime。そして、なんといっても全編を通してジャック・プレヴェールの脚本が秀逸です。プレヴェールは、ご存知! シャンソン『枯葉』の作詞者です。ほかにも優れた詩を沢山作った詩人として有名ですが、本職は映画の脚本家でした。珠玉の台詞、物語の構成力、至る所に隠められた隠喩、どこを切っても完璧です。そして、第二次世界大戦中、苦戦しながら、ドイツ占領下のフランスでこの映画を作り上げたマルセル・カルネの強靱な意志に敬意を表します。

インテリアに関して言えば、南仏ニースに全長400mにも及ぶセットを建てた美術監督アレクサンドル・トローネルの仕事が着目されます。トローネルはコダヤ人であり、ナチスに追われながらもこの映画のセット等を作り続けた信念の人です。撮影現場に出ればナチスに拘束されるおそれがあるため、山中の修道院に隠れ、遠くから指示を出して見事に美術監督を務めました。

マルセル・カルネ組の美術は、緻密に計算されています。冒頭と最後は「犯罪大通り」のシーンですが、パースペクティブな演出をするため、敢えてセットは奥に行くほど小さく作り、奥の方のエキストラには子供を使っています。街並みは、所謂「書き割り」ですが「詩的リアリズム」に徹するこだわりを感じます。



天井桟敷の人々

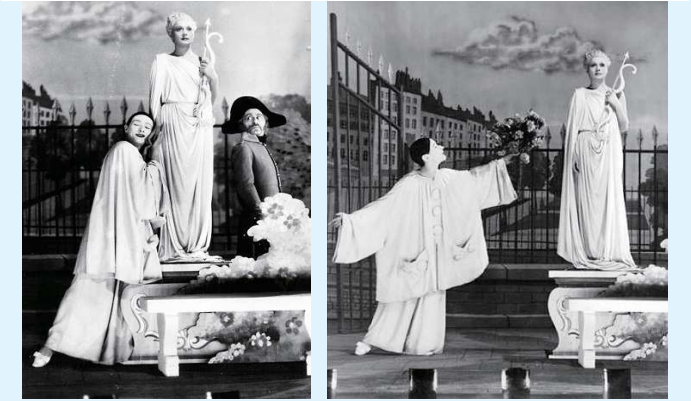
アレクサンドル・トローネルは、後年のインタビューで「映画は光でもって成り立つ。セットは陰影があって引き立つ」と言っています。インテリアの仕事も、彼の信条のように、



カーニバルでごった返すタンブル通り



ドラクロア 1830年7月28日「民衆を導く自由の女神」



パチスト(ジャン＝ルイ・バロー)とガランス(アルレッティ)光があって成り立ち、陰影を意識すればより引き立つのではないのでしょうか。

『天井桟敷の人々』のストーリーは、「犯罪大通り」にたむろする人々の欲望と喜怒哀楽を、パチスト(ジャン＝ルイ・バロー)の pantomime に表象されて進みます。もう一人の主演ガランス(アルレッティ)は、物語の最後、しがらみを捨て、カーニバルでごった返す犯罪大通りに消えていきますが、私は、自由人ガランスは戦時下のフランスを象徴し、ドラクロアの名画「民衆を導く自由の女神」を体現したのではないかと考えます。

ガランスとは、フランス語で「茜」という意味です。その名は、何もかも赤色に染める可憐な花をイメージします。一方、綴りに着目すると "GARANCE" は "FRANCE" と一字違いです。顔を踏むと、フランスをイメージします。

フランスがナチスドイツに占領されていた頃、粛々と映画を作っていたマルセル・カルネ、ジャック・プレヴェール及びアレクサンドル・トローネルは、ナチスにばれないよう、表向き大衆娯楽の「寓話」に見せ掛けながら、フランスの誇りとドイツへのレジスタンスを芸術で示し、人々を勇気づけると共にファシズムに傾く当時の社会に警鐘を鳴らしたのではないのでしょうか。劇中、登場人物のガランスはフランス国家の象徴(FRANCEは女性名詞)。ガランスを追いかける四人の男、ピエール＝フランソワ・ラスネルは悪者のドイツ、フレデリック・ルメートルは陽気なアメリカ、裕福なモンレー伯爵はイギリス、そして善人のパチストは、成り行きで妻子を裏切り、仕事も投げだし愛欲に走る愚衆のフランス人を象徴すると推察します。

新型コロナ禍で一気に世相が変わり、世界中が極端に保守化し全体主義に傾いた今こそ『天井桟敷の人々』を参考に、リベラルを重んじる必要があります。暫くDVDを事務局に預けますので、テレワークの合間に、是非ご覧下さい。

令和2年度

年間行事予定

事業部	1	2
年月	受験推進・検定関係 学校訪問・葉知利書	見学会・親睦 事遊展・手作りサロン
4	部会 葉知利書 No. 110	
5	部会 (予定)	部会 (予定)
6	試験会場決定 第1・第2	TALK PAL ⑩/19(金)
7	葉知利書 No. 111	かぶだち 部会 ビアパーティ/31(金)
8		TALK PAL ⑪/19(水) 見学会
9	(検定説明会) 部会	部会

事業部	1	2
年月	受験推進・検定関係 学校訪問・葉知利書	見学会・親睦 事遊展・手作りサロン
10	検定試験 17(土)18(日) 葉知利書 No. 112	ASO-BOZE ハイキング TALK PAL ⑨/19(月)
11	KAGUKEN (家具図面の勉強会)	部会 MANA-BOZE KIS バスツアー
12	学校訪問 証書伝達式・歓迎会	事遊展・忘年会 /4or11(金) 篆刻教室 1/(月) TALK PAL ⑩/19(土)
令3 /1	部会 葉知利書 No. 113	新年会/10(日) 部会
2	学校訪問	TALK PAL ⑪/19(金)
3		部会 KIS バスツアー